２学年保護者会（６月２９日（火））　校長挨拶

＜はじめに＞
　日ごろから、本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。

＜高校生は子ども半分、大人半分＞
　高校生は、半分、子ども。半分、大人。子どもだったり、大人だったり・・・
　「こども」から「おとな」へ。高校生は「ことな」とも呼ばれ、微妙な、難しい年頃です。

　「３つ叱って、５つ褒め、７つ教えて子は育つ」と言われます。
　子どもを上手に育てるには、叱って、褒めて、教えるバランスが大事です。

　叱ったり、褒めたり。優しく、厳しく。押したり、引いたり。手を引いたり、手を離したり・・・上手にバランスをとりながら、「ことな」と呼ばれる難しい年頃のお子さんを、ご家庭と力を合わせ、クラス担任は指導・支援しております。
　クラス担任は、豊かな経験とあふれる情熱を持った、すばらしい先生です。
　ご安心ください。

＜修学旅行＞
　修学旅行は、生徒の学校生活に潤いや、秩序と変化を与え、思い出に残るなど、有意義な教育活動です。

　修学旅行について、昨年度の２年生の感想を紹介しましょう。

　まずは、修学旅行から戻ると、生徒一人一人が作成する「修学旅行新聞」から。
　行く前は意味があるのかと思ったが、行ってみたらあっという間で、思った以上によかった・・・いろいろな体験ができて、勉強になりました・・・日数も短くなり、行き先も変わったが、修学旅行はやっぱりよかった

　次に、「生徒会誌」から。
　とても迫力があって・・・とても歴史を感じました・・・穏やかな気持ちなりました・・・絶景を楽しむことができました・・・有意義な活動ができました
　すべて楽しかった・・・探検をしたり、きれいな景色を見たりと、行ってみないとわからないことが多々あり楽しかったです・・・仲が深まり、一生忘れられない良い思い出になりました

　今の２年生からも、修学旅行の実施を求める声がクラス担任の耳に届いているのもうなずけるところであります。学校としても、修学旅行の意義を踏まえ、こうした生徒の思いにも応えたいと考えております。
　そのためにも、感染状況等を踏まえながら、感染防止策の確実な実施や、保護者の皆様のご理解とご協力が重要であります。

以上を踏まえ、修学旅行について、現時点では、感染症対策を徹底しながら、当初の計画を予定通り実施したいと、学校としては考えております。
ただし、今後の感染状況によっては、旅行日程の延期など、実施方法の変更の可能性もあるとも考えております。

では、実施に当たっての感染症対策とは具体的にはどのようなことか、延期するかしないかの見極めはいつになるかなど、詳しくは、この後、説明があります。

＜遠野ならではの教育＞
クラス担任を中心に、遠野高校の全職員が力を合わせて、
お子さん一人一人を手厚く、丁寧に、きめ細かに指導・支援しています。

「ありがとう」と言えるように。「ありがとう」と言ってもらえるように。
「思いやりの心」を持つように。「努力する力」を身につけるように。「自立」できるように。

今春の卒業生まで１０年連続で、生徒の希望進路実現１００％を達成。
「遠野ならではの教育」の成果だと考えております。

お子さんを社会に送り出すのに、２年を切りました。
学校と家庭が力を合わせてあと一踏ん張り。
では、何を、どうするのか。
このことについては、これからのお話の中で。

＜統合校＞
来年の令和４年４月に、本校は湯本高校と統合します。
いわき湯本高校と校名は変わりますが、校舎方式を採用し、遠野高校２年生については、いわき湯本高校遠野校舎の生徒として、卒業までここ遠野の学びやで高校生活を送ることとなっております。
来年度、いわき湯本高校遠野校舎において、「遠野ならではの教育」が円滑に継続されるよう、準備を進めておりますので、ご安心ください。
なお、遠野校舎の学習や生活等については、後日あらためて、お知らせいたします。

＜まとめ＞
お子さんが社会へ力強く旅立つことができるよう、
お子さんをまん中に家庭と学校で力を合わせて頑張りましょう。
本日は、よろしくお願いいたします。